



## 村木理英が提案する 吉備線 (桃太郎線) LRT化のメリット

### 提案① 道路整備

市街地南北道路  
福井支線3467号南北延長

### 提案②

踏切問題の解消・東総社駅北口の開設



東総社駅付近の現状

LRT化によって広がる可能性



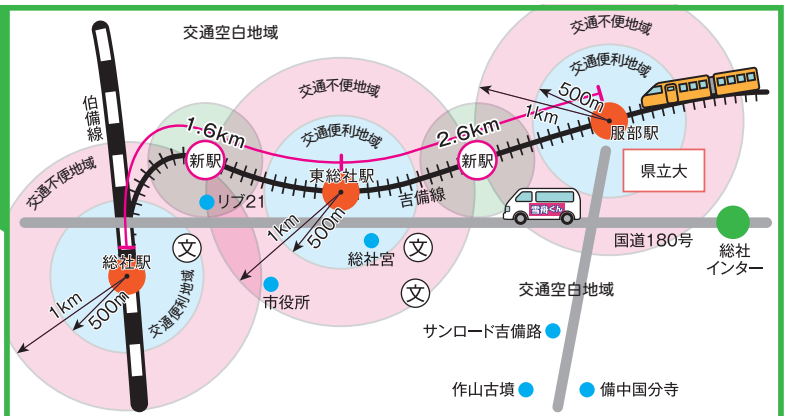
軌道の上を車両が走行 (江ノ島電鉄)  
軌道法に基づく併用軌道が敷設されている。



広々とした踏切 (阪堺電軌上町線)  
併用軌道を踏切として活用している。



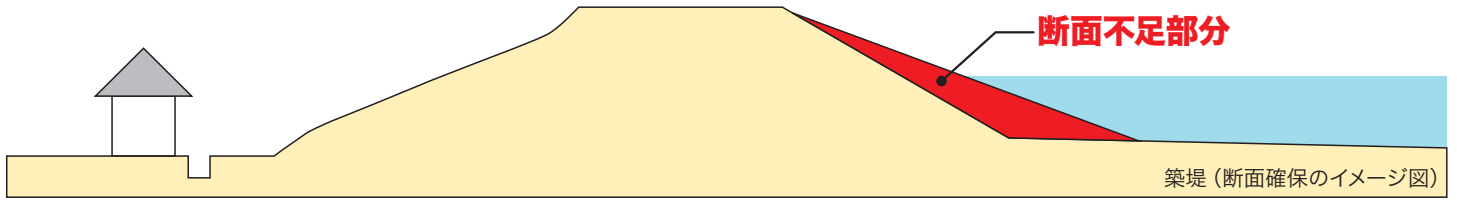
### 提案③



新駅を作り交通空白地域・交通不便地域を減らす

# 湛井の堤防を考えよう

高梁川左岸堤防において、湛井堰から南約1キロに渡って、国土交通省が定める堤防計画断面の断面不足が判明しています。堤防を補強し、規定の断面確保をしなければなりません。しかし、この断面確保の実施が現状ではなかなか進んでいません。湛井堰から南約1キロに渡る堤防は、総社市中心部を高梁川の氾濫から守る重要な堤防です。甚大な災害を防ぐためにも断面確保は不可欠です。堤防補強工事を早急に行う必要があります。以上のことから国へ堤防補強工事の要望を行い、本年度から、堤防工事に着手する予定となりました。



## 高梁川河川敷グラウンドの有効活用

平成28年度の7名3組という利用者数は、問題があると思います。他の2年も決して利用者が多いとは言えません。この状況で、予算をかけインフラ整備をし直し、キャンプ場を存続させる意味があるのでしょうか。

河川敷グラウンド全体を整備する中で、今後のキャンプ場の必要性も十分に議論すべきです。これからの河川敷グラウンドが、総社市民の皆様にお役に立てるものになるように、意味のある河川敷グラウンド整備を行っていきべきだと思います。

高梁川東岸河川敷キャンプ場 過去3年の利用者数	
平成26年度	30名7組
平成27年度	43名8組
平成28年度	7名3組(※)

※平成28年12月6日現在の人数



## 学校環境 ～総社西中学校の運動場が狭い!～

- 球技(ソフトボール)を行う場合、1学級2面で行う必要があるため、塁間を狭く取ると共に、正式ではないソフトテニスのボールを使わざるを得ない状況です。
- それぞれの部が運動場の中で重なって練習を行っています。
- 部員数の多い部は、敷地外(学校の外周)を走らざるを得ない状況であり、自転車や自動車との接触が心配されます。特に西中付近の道路は、幅が狭く交通量が多いのでとても危険です。

学校名	生徒数(人)	総敷地面積(m <sup>2</sup> )	運動場面積(m <sup>2</sup> )	1人あたりの運動場面積(m <sup>2</sup> )
総社西中学校	785	22,039	13,059	16.64
総社東中学校	863	26,315	11,012	12.76
総社中学校	246	21,899	25,130	102.15
昭和中学校	73	13,582	9,807	134.34
総社小学校	763	18,128	8,755	11.47
常盤小学校	786	21,483	10,151	12.91
総社中央小学校	409	19,984	14,282	34.92
池田小学校	48	9,903	3,194	66.54

※総社中学校の運動場面積には総社西公園の面積(12,760m<sup>2</sup>)も含む

左の表で分かるように、市中心部の学校(西中・東中・総社小・常盤小)は、生徒1人あたりの運動場面積が他の学校より小さくなっています。特に部活動に力を入れる中学校では、運動場を確保し、満足な部活動が行えるように改善していく必要があります。子どもたちがのびのびとした学校生活を送れるよう、運動場拡充の実現に向けて取り組んでいきます。